

鍼灸の取り組みと その効果について

特別養護老人ホーム 白雪
鍼灸師 末広浩二

鍼灸とは

- 古代中国で考え出された
- 鍼と灸を用い、経絡(ツボ)に刺激を与え、自然治癒力を高め、症状の軽減・予防などを行う手技療法

身体に及ぼす鍼灸の効果

- 筋緊張が和らいで、血行を促進
- 血液中の白血球、リンパ球が増える
- 代謝を活性化させ、自然治癒力が高まる
- 神経機能や内臓器官の働きを良くする

目的

痛み、痺れ、筋緊張、冷えなどの
ある方へ施術
↓
機能訓練での心身残存機能維持・向上
↓
ADL低下予防・介護負担の軽減につながる

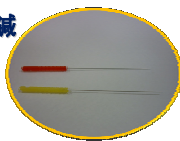
当施設では

- 鍼灸師(2名)と機能訓練指導員(理学療法士1名、作業療法士2名)が常勤し、鍼灸師は痛み、痺れ、筋緊張、冷えなどに対応

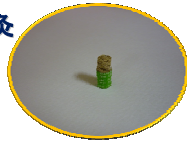
対象者: 40名 頻度: 週1~3回

- 疼痛の強い方または本人希望のある方に実施

鍼



灸

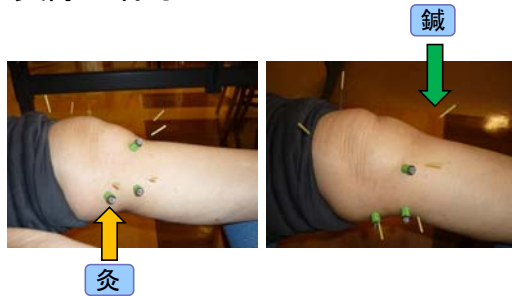


事例1

A様紹介

- 80代 女性 要介護2
- 疾患名: 左膝変形性関節症
- 疼痛部: 左膝内側 頻度: 週2回
- 問題点: バギーで移動されているが、膝痛のためふらつきあり
- 目的: 膝痛の軽減を図る事で、無理のない可動域訓練と下肢筋力訓練の実施につなげ、立位・歩行を維持する

実際の様子



A様の効果

- 鍼灸と機能訓練により膝の痛みが和らぎ、脚を引きずる動作が少なくなった
- 筋力低下予防につながった

本人様の声: 脚が軽くなった

職員の声: 脚の運びが良くなった

鍼灸の日を楽しみにしている

リハビリの声: 痛みが軽減し、筋緊張が緩和した。積極的になった。

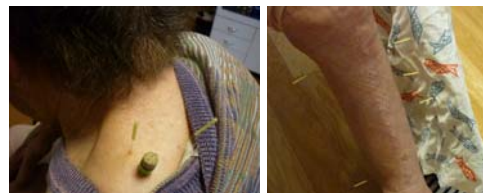
事例2 B様紹介

- 90代後半 女性 要介護3
- 疾患名: 脳出血左片麻痺
- 疼痛部: 左肩、左下腿 頻度: 週2回
- 問題点: 肩と下腿の疼痛により夜間不眠
- 目的: 疼痛部の筋緊張を緩和し血行改善することで症状の軽減を図り、無理のない可動域訓練へつなげる

実際の様子

鍼・灸

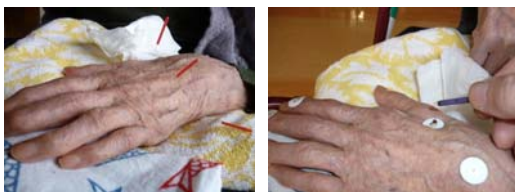
鍼



実際の様子

鍼

灸



B様の効果

- 左手指が若干動くようになった
- 前腕の回内回外の動きが出来るようになった

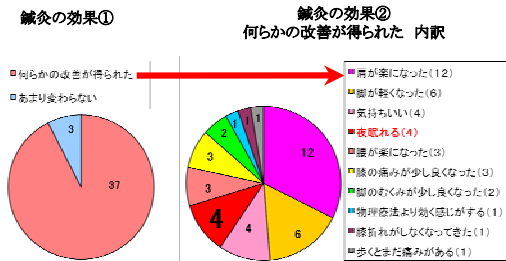
本人様の声: 肩の痛みが楽になり、夜寝られる。

手が動くようになって良かった。

職員の声: 肩の痛みが軽減し、夜間、よく寝ている

様子。意欲的になった。

利用者様の感想



まとめ・考察

- 膝の痛みや歩行の改善は、活動範囲の維持や「痛みが軽くなった」という喜びにつながった。
- 脳梗塞、脳出血後遺症による痛み・痺れに対し、入所当初より治療を行うことで、自然治癒力が高まり、改善が期待できると考えられた。
- 疼痛改善・活動範囲拡大は、筋力・精神機能面の維持・改善につながり、長期的な介護負担軽減が図れると考えられた。

今後の課題

- 鍼灸を広く周知することに努め、多くの利用者様の体調改善に関わっていききたい。
- 他職種と連携し、痛み・痺れだけでなく、不眠・便秘・めまいなどに対してもアプローチし、生活リズムの改善を図る事で、介護負担軽減へつなげていきたい。

ご清聴ありがとうございました